

消費者のくらし向きに関するアンケート結果(2009年秋)

2009年11月5日
(社)ふくい・くらしの研究所

調査月…2009年10月

調査名…2009年秋の消費動向調査

- 内容:
- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 消費者の生活・くらし | 5. 今年のお歳暮について |
| 2. 1年後の物価 | 6. 消費者トラブルについて |
| 3. 今後半年間の耐久消費財の支出 | 7. 「くらしの相談ダイヤル」について |
| 4. 今後半年間のサービス等への支出 | 8. この半年間の政府の景気対策の評価 |

調査対象…福井県民生協組合員3000名(市町世帯数比で共同購入利用者の中から無作為抽出)

集約: 配布3000枚、回答1427枚、回答率47.6%(共同購入商品配送時に配布、郵送で回収)

調査者…(社)ふくい・くらしの研究所

I. 消費者の生活・くらし向き、収入の増え方、職のを見つけやすさ、耐久消費財の支出)

政府は景気動向を、こう見ています(2009年10月16日公表の内閣府月例報告より抜粋)

—景気は、持ち直してきているが、

自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。—

先行きについては、当面、雇用情勢が悪化傾向で推移するものの、海外経済の改善などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ懸念、金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

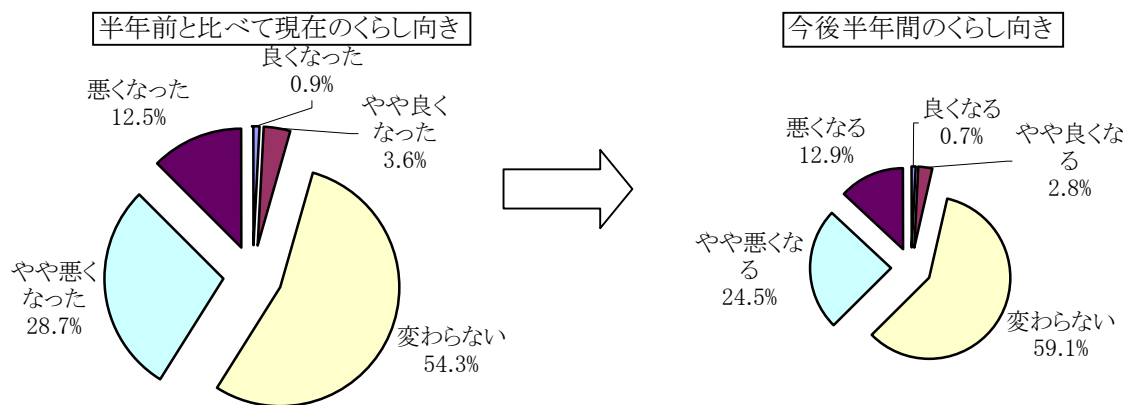
一方で、今回(社)ふくい・くらしの研究所が実施したアンケート結果(09年10月、標本数回収数)によると、

- ①くらし向きは半年前と比べて厳しくなったが4割を占め、今後半年間の消費者心理も冷え込んでいる
- ②ただし、前回調査(09年3月実施)に比べると、やや持ち直している

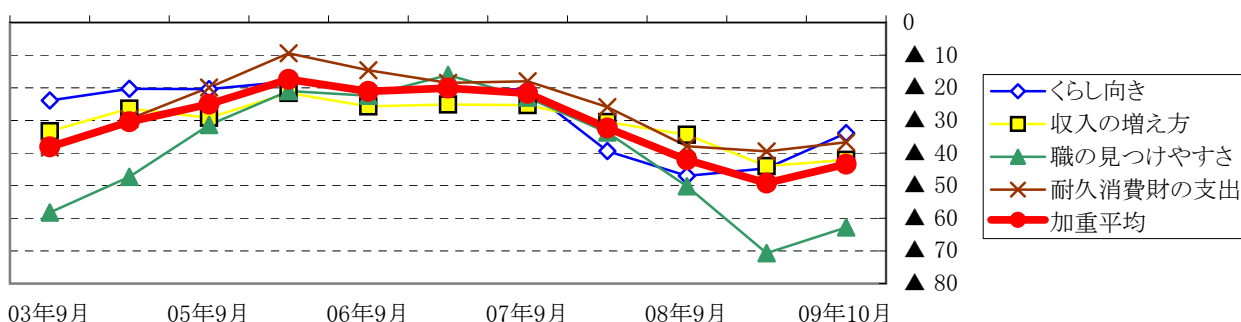
☆半年前と比べて現在の「くらし向き」が、『良くなった』『やや良くなった』が4.5%に対して、「悪くなった」「やや悪くなった」が41.2%を占め、その差(D. I. 値)▲36.7と、くらし向きは春よりも厳しくなっています。また、今後半年間のくらし向きについても、D. I. 値が▲33.9と厳しい見方が多く、消費者心理は冷え込んでいます。

☆上記の「くらし向き」に、「収入の増え方」や「職のを見つけやすさ」、「耐久消費財の支出」を加えた、今後半年間の生活・くらしの見通しは、平均のD. I. 値が▲43.4と厳しいものの、今春09年3月の調査結果(▲49.2)に比べやや持ち直しています。ただし、07年3月をピークに急降下してきた「職のを見つけやすさ」はやや持ち直したとはいえ、D. I. 値は▲62.8と相当厳しく、合わせて64.9%の方が『見つけ難くなる』『やや見つけ難くなる』と回答しています。

☆その他、今後半年間の「旅行への支出」はD. I. 値▲49.9と、前回調査(▲45.5)よりさらに低下しています。



今後半年間の生活・くらし



II. 1年後の物価

1年後の物価が『上がる』と答えた方が減少しており、消費者はデフレを懸念か？

☆物価見通しは、『下がる(▲5%以上)』や『下がる(▲5%未満)』が9.5%に対し、『上がる(5%未満)』『上がる(5%以上)』が48.9%を占めていますが、物価が上がると答えた方が今春調査時より減少しています。

この水準は07年3月以来で、10月30日に発表された9月度全国消費者物価指数も、7ヶ月連続で前年同月比マイナスとなっており、消費者は「デフレ」を懸念し始めたと思われます。

III. 今後半年間の耐久消費財の支出

エコポイントの効果か、カラーテレビ購入予定者が増加。エアコンや携帯電話の需要は低下。

☆エコポイントやエコカー減税の影響か、乗用車や電気冷蔵庫の低下傾向に歯止めがかかり、カラーテレビは地デジ需要もあり『今後半年間に支出を予定』している方が51.3%(3月調査時は37.5%)と増えています。ただし、エアコンは低下しています。

☆その他の耐久消費財では、電気掃除機やパソコンを除き、需要は停滞か低下しており、特に携帯電話は大きく低下しています。

IV. 今後半年間のサービス等への支出

サービス等への支出全体では09年3月調査時よりやや増加し、「レストラン等の飲食代」などが改善

☆サービス等への支出全体では、『支出予定はない』が34.2%と最も多く、次いで『特に変えない』が33.9%となっています。D. I. 値は▲13.6と前回調査時(▲15.8)よりやや増加しています。

☆前回調査時(2009年3月)よりD. I. 値が改善したのは、「文化的催し物の鑑賞(▲8.0→▲3.3)」、「遊園地等の娯楽費(▲25.2→▲19.7)」、「レストラン等の飲食代(▲53.6→▲42.2)」の3項目です。一方で、「自己啓発関連支出」や「家事代行サービス」は低下しています。

V. 今年のお歳暮について

送り先は『親戚』、贈答箇所数は『1~5箇所』、予算は、『5千円未満』が多数を占め、

予定商品は、1位『ビール』、2位『ハム』、3位『日本酒・地酒』、4位『洗剤』、5位『洋菓子詰合せ』

☆送り先は『親戚』50.0%が最も多く、前年調査と比べると、『送らない』がやや減っています。

☆贈答箇所数は『1~5箇所』62.0%が最も多くなっています。

☆予算は、『5千円未満』45.9%が最も多く、次いで『5千~1万円』35.7%となっています。

☆予定商品は、1位『ビール』23.9%、2位『ハム』20.8%、3位『日本酒・地酒』18.0%、4位『洗剤』15.2%、5位『洋菓子詰合せ』12.2%となっています。(前年の5位は『かに』)

VI. この半年間の政府の景気対策の評価

この半年間に政府が実施した景気対策のうち、高速料金割引およびエコカー減税、エコポイント制度について

評価を聞いたところ、高速料金割引は59.3点(100点満点)、エコカー減税は67.4点、エコポイントは63.1点で、

※平均63.2点となり、エコカー減税の評価が最も高くなっています。

高速料金割引への評価がやや低いものの、この3つの景気対策に対する評価はまずまずとなっています。

(1) 高速道路土日祝日一律千円について

今年ETC車載器を購入した人は25.3%で、実際に高速料金千円を体感した人は49.2%となっています。

自由記述では、『評価しない』や『評価するがかえって渋滞になる』、『エコに反するのでは』等の意見が多く、民主党のマニフェストへの『高速道路無料化に反対』も11件出ています。

(2) エコカー減税について

エコカー減税対象車を購入した人は7.7%となっています。

自由記述では、『対象期間が短い』や『一時的対策でしかない』、『買い替え時期でないと買えず不公平』等の意見が多くなっています。

(3) エコポイントについて

エコポイントを取得した人は17.6%で、エコポイントを商品に交換した人は7.0%となっています。

自由記述では、『交換システムが面倒』や『ポイントにせず価格を引き下げて』、『低所得者には買えない』等の意見が多くなっています。

(4) その他

その他に自由記述では、「定額給付金」や「生活」、「環境問題」、「財政・税金」をめぐり、前政権の評価や民主党政権に対する期待・不安が出されています。

定額給付金に対する評価は芳しくなく、それ以外に、『小泉内閣以降は生活に重点を置いた対策が取られなかった』『庶民感覚とのずれがあった』『暮らしやすくなったという実感がわからない』という意見や、『景気対策と環境問題を両立させるのは難しい』『もっと長期的な視野で政策を立ててほしい』『景気対策のお金はどこから得るのか心配です。増税するのかしら』等の、前政権だけではなく民主党政権への注文や不安も出ています。